

■ 会社の概要・株主メモ

役員 (2020年7月1日現在)

取締役及び監査役	
代表取締役社長	山石 昌孝
取締役専務執行役員	三上 修
取締役常務執行役員	野呂 政樹
取締役常務執行役員	松尾 剛太
取締役執行役員	中村 亨
取締役執行役員	Nitin Mantri
社外取締役	岡田 秀一
社外取締役	竹中 宣雄
社外取締役	河野 宏和
社外取締役	山根 節
社外取締役	堀 雅寿
常任監査役	菊地也寸志
常勤監査役	内田 寿夫
社外監査役	亀井 淳
社外監査役	清水 恵
社外監査役	木村 博紀

執行役員 (取締役兼務者を除く)

専務執行役員	瀧本 真一
常務執行役員	挾間 浩久
常務執行役員	岸 温雄
常務執行役員	山本 忠治
常務執行役員	池田 均
常務執行役員	Jeff Barna
執行役員	近藤 成俊
執行役員	城川 隆
執行役員	中山 靖夫
執行役員	清宮 眞二
執行役員	宮本 知昭
執行役員	結城 正博
執行役員	塩入 博之
執行役員	矢羽田雄彦
執行役員	中村 善州
執行役員	藤津 聡
執行役員	梁取 和人

大株主 (2020年6月30日現在)

株主名	持株数(百株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	169,689	10.56
日本ゼオン株式会社	162,765	10.13
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	114,390	7.12
朝日生命保険相互会社	109,055	6.79
株式会社みずほ銀行	61,300	3.81

※持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株式分布状況 (2020年6月30日現在)

所有者区分	株主数(名)	株式数(百株)	株式数比率(%)
個人・その他	13,470	137,209	8.09
金融機関	72	803,667	47.40
その他国内法人	258	298,809	17.62
外国人	539	284,873	16.80
証券会社	50	81,018	4.77
自己株式	1	89,912	5.30
合計	14,390	1,695,490	100.0

株主メモ

決算期	12月31日
定時株主総会	3月開催
株主名簿管理人 特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内1丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 及び電話照会先	〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL: 0120-782-031 (フリーダイヤル)
基準日	12月31日、その他必要により取締役会で決議し、 あらかじめ公告します。
配当金受領株主確定日	12月31日及び中間配当を行うときは6月30日
公告方法	電子公告

株式事務手続きのお問い合わせ先

- お取引の証券会社の口座に記録された株式についての住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受け取り方法の指定など

お取引口座を開設されている証券会社

- 未受領の配当金に関する照会
- 特別口座に記録された株式についての一般口座への振替請求、住所変更、名義変更、単元未満株式の買取・買増請求、配当金受け取り方法の指定など

株主名簿管理人・特別口座管理機関
三井住友信託銀行株式会社

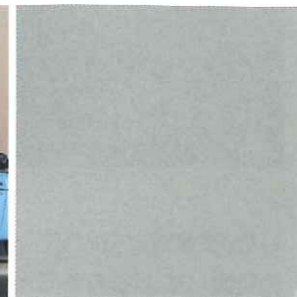
横浜ゴム株式会社 〒105-8685 東京都港区新橋5丁目36番11号
TEL (03)5400-4500 <https://www.y-yokohama.com>
(作成元: 総務部)

環境保全のため、
FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

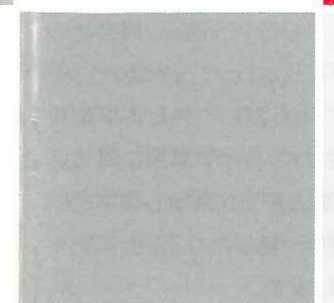
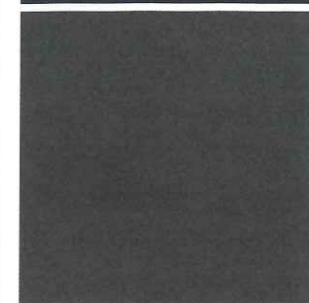


第145期 中間報告書

2020年1月1日から2020年6月30日まで



GD 2020



横浜ゴム株式会社

厳しい事業環境となるも 最終損益は黒字を確保

MB事業とATGが底堅く推移

2020年度上期の日本経済は外出自粛などの移動制限や企業活動の停滞に加え、4月に発令された緊急事態宣言など新型コロナウイルス感染症の感染防止に向けた各種規制や個人消費の悪化により、景気は大きく減速しました。世界経済は中国で一部回復の兆しが見受けられるものの、米国、欧州などではロックダウンに伴う消費活動の低迷やグローバルサプライチェーンの混乱などから景気は厳しい状況となりました。こうした中、当中間期の売上収益は前年同期比20.6%減の2,471億円、事業利益が同86.8%減の23億円、営業利益が同88.3%減の29億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益は同92.5%減の13億円となりました。これまで取り組んできた各事業強化策の効果が発揮され、主力のタイヤ事業に落ち込みがあったものの、MB事業とATGが貢献し黒字を確保しました。配当金は中間は一株当たり32円、年間では一株当たり64円を維持します。

コロナ禍に対しあらゆる経営策を講じる

国内外での新型コロナウイルス感染症拡大に伴う当社の主要マーケットにおける企業活動や消費活動の低迷は、当社の販売および生産にも影響しました。当社はこの状況をリーマンショック以上の緊急事態と捉え、速やかに当社独自の緊急事態宣言を発令しま



した。従業員とその家族の健康と安全の確保、働き方の見直しによる感染防止、固定費の見直しや販管費の削減、設備投資の凍結といったコスト削減、コミットメントラインの設定や機動的な資金調達、手元流動性の確保といった財務基盤の維持を徹底しました。こうしたことにより、上期は経費90億円、設備投資額111億円を削減しました。また、強固な財務基盤の維持により、7月上旬に公表された日本格付研究所による当社信用格付はA+に据え置きとなりました。

「GD2020」の戦略に継続して取り組む

2020年度は3カ年の中期経営計画「GD2020（グランドデザイン2020）」の最終年度となります。上期の主な成果をご紹介しますと、タイヤ消費財戦略ではメルセデスAMGやBMWといったプレミアムカーメーカーにハイパワー・プレミアムカー向け高性能

アドバンススポーツ・ブイチマルナ
タイヤ「ADVAN Sport V107」が相次いで装着されました。ブランド戦略ではイングランド・プレミアリーグ「チェルシーFC」と7月から新たにグローバルタイヤパートナー契約を開始し、同クラブを活用した販促活動を継続します。ESGでは3月にタイ天然ゴム会社と「持続可能な天然ゴム調達のための覚書」を締結しました。

下期は積極的な拡販施策を展開

下期の活動については、販売ではコロナ禍でも積極的な拡販を進めます。生産は引き続き需要に応じた柔軟な生産を行い、グローバルでの在庫適正化を進めます。財務面ではウイズコロナを見据えた長期安定的な資金調達のために7月末に社債100億円の発行を行いました。タイヤの販売状況は日本市場は各国と比較すると落ち着きを取り戻しつつあると捉えています。新車生産は海外の一部地域では回復の兆しも見えてきました。こうした中、下期はウインタータイヤの販売強化を図り、国内では引き続き女優の深田恭子さんをイメージキャラクターとして活用します。オールシーズンタイヤについても乗用車用のブルーアース・フォーエス・エーダブリュー・ニーチ「BluEarth-4S AW21」を拡販するほか、JPN TAXI用のタイヤを2021年発売に向け準備を進めます。欧州ではウインタータイヤの新商品を本年秋に発売します。トラック・バス用タイヤは下期も超偏平シングルタイヤを積極展開します。北米は引き続き商品拡充に取り組み、国内もトラック用ウルトラワイドベーススタッドレスタイヤ「903W」キューマルガンダブリューを投入しさらなるラインアップ強化を図ります。三重工場ではウルトラワイドベースタイヤの増産投資が完了しており、今後旺盛な需要に対応していきます。2016年に買収し

たATGはコスト競争力と多様な商品ラインアップを武器に力強い成長を実現しています。インド・タヘジ工場の拡張工事は当初計画どおり、昨年末に1.6倍の能力増強が完了しました。

MB、スポーツ事業も新商品を投入

MB事業では耐摩耗性能を約40倍向上させたカバーゴムを新たに開発し、海外規格に準拠した高圧ホースに搭載しました。スポーツ事業では2020年8月にアマチュアゴルファー向けにフルモデルチェンジした「RS5」アルエス・ファイブシリーズと、新フラッグシップモデル「PRGR IRONS」プロギア・アイアンを発売しました。

下期も全社一丸となり利益確保を堅持

2020年度通期の業績予想は売上収益5,360億円、事業利益210億円、営業利益200億円、親会社の所有者に帰属する当期利益125億円を計画しています。下期も引き続きウイズコロナを見据え、年間で合計170億円の経費削減、183億円の設備投資額削減を図り、これらの数字達成に邁進します。

本年は「GD2020」の最終年となりますが、現在の環境を考えると当初目標には遠く及びません。現在策定中の新中期経営計画では達成できなかった目標に再挑戦します。株主の皆様におかれましては、さらなるご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2020年8月

代表取締役社長
山石 昌孝

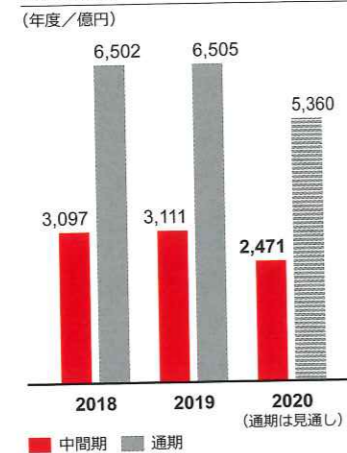
■ 連結の業績概況

経営成績

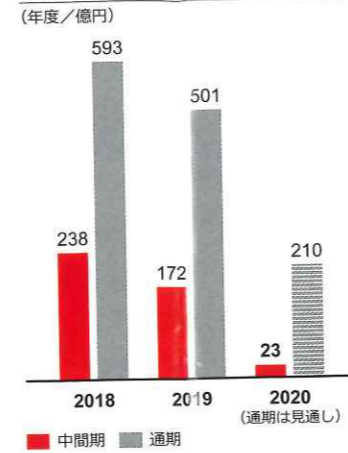
当中間期の連結決算は売上収益が前年同期比20.6%減の2,471億円、事業利益が同86.8%減の23億円、営業利益が同88.3%減の29億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益が同92.5%減の13億円となりました。

新型コロナウイルス感染症の影響により主力のタイヤ事業が落ち込んだものの、MB事業とATGが底堅く推移し、さらに各種内部改善に努めた結果、厳しい事業環境下においても黒字を確保しました。

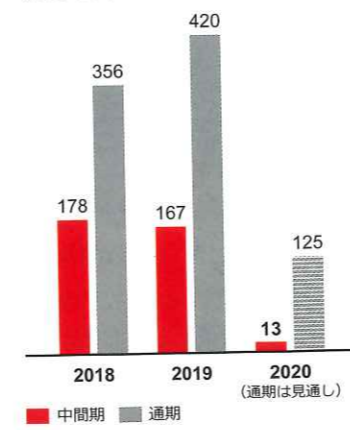
売上収益



事業利益

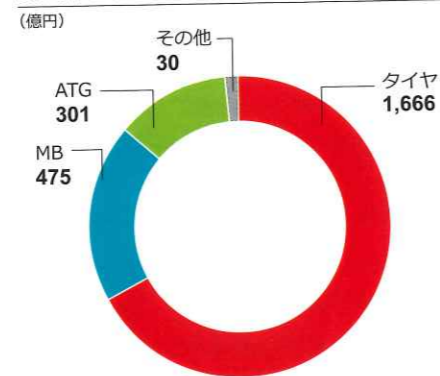


親会社の所有者に帰属する四半期利益

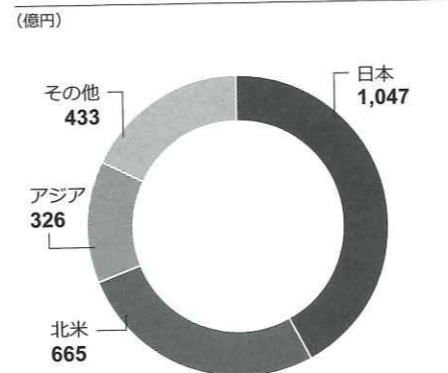


※ 事業利益 = 売上収益 - (売上原価 + 販売費及び一般管理費)

売上収益内訳



所在地別売上収益



事業別

タイヤ

売上収益 **1,666億円** 事業損失 **20億円**

売上収益は前年同期比20.7%減の1,666億円、販売数量の減少に加えて、生産量減少に伴う製造原価の悪化および第1四半期に計上した北米におけるリコールに関連した在庫整理費用などにより事業損失は20億円（前年同期は事業利益75億円）となりました。新車用は国内で新型コロナウイルス感染症の影響による需要の減少がさらに進行したほか、海外で

各国自動車メーカーによる生産調整が継続し、国内外ともに売上収益は前年同期を下回りました。市販用は国内で年初の暖冬の影響により冬用タイヤの販売が低調だったことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響に伴う消費活動の停滞で需要の減少が継続したほか、海外でも需要の減少が継続し市販用タイヤ全体の売上収益は前年同期を下回りました。

MB

売上収益 **475億円** 事業利益 **14億円**

売上収益は前年同期比20.2%減の475億円、事業利益は同65.2%減の14億円となりました。各事業において新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、ホース配管は国内外で取引先の操業停止などにより販売が低調で、売上収益は前期を下回りました。工業資材は取引先の操業停止や工事中断などにより、コ

ンベヤベルトおよび土木資材の販売が低調で売上収益は前期を下回りました。ハマタイトも国内では工事の中断などが継続したほか、国内外で自動車生産の減少が続いていることから売上収益が前期を下回りました。航空部品は民需向けの販売が減少したことでも売上収益は前期を下回りました。

ATG

売上収益 **301億円** 事業利益 **32億円**

売上収益は前年同期比19.3%減の301億円、事業利益は同37.3%減の32億円となりました。農業機械用、産業車両用タイヤをはじめとするオフハイウェ

イタイヤは、世界的な新型コロナウイルス感染症の影響により需要が減少し売上収益は前年同期を下回りました。

「投資家・株主の皆様へ」サイトのご案内

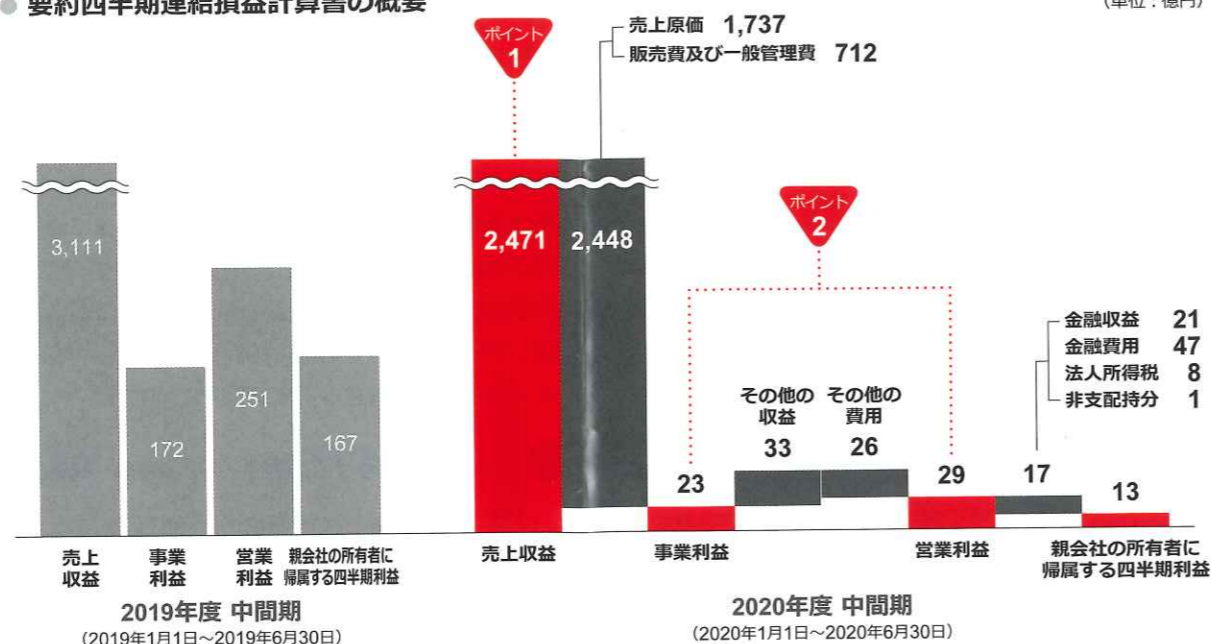
当社の「投資家・株主の皆様へ」サイトでは、最新の会社情報やIR資料などを掲載しています。特に「決算説明会」ページでは、業績・財務情報についてより分かりやすくご紹介するため、決算説明会のプレゼンテーション資料とその詳細な説明を掲載しています。ぜひご活用下さい。

URL: <https://www.y-yokohama.com/ir/>



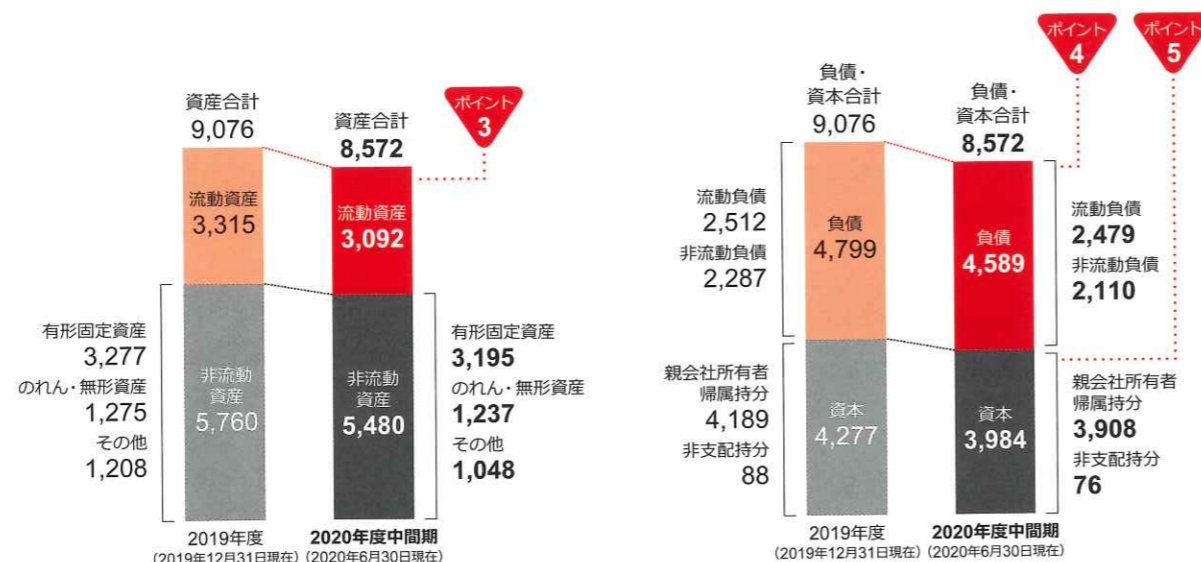
● 要約四半期連結損益計算書の概要

(単位：億円)



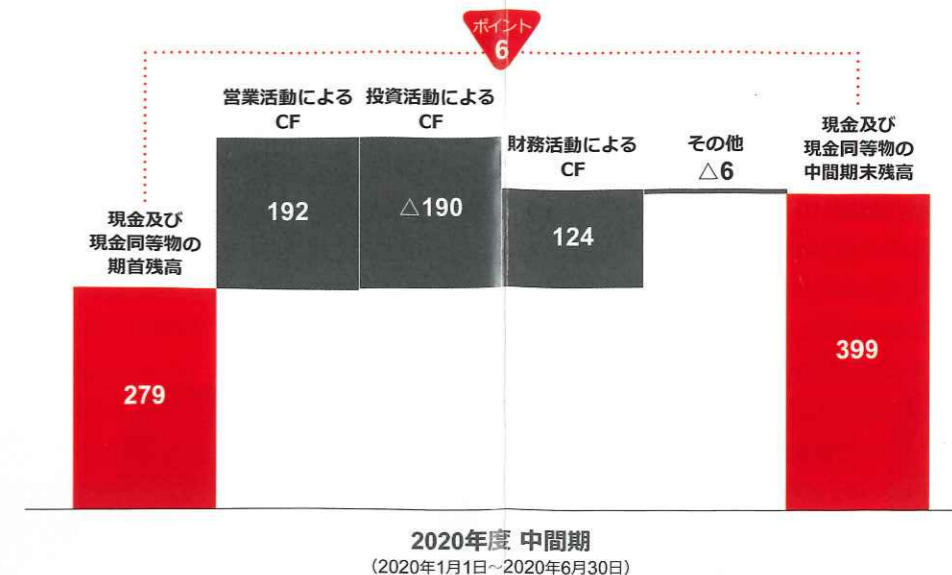
● 要約四半期連結財政状態計算書の概要

(単位：億円)



● 要約四半期連結キャッシュ・フロー(CF)計算書の概要

(単位：億円)



ポイント1 売上収益

新型コロナウイルス感染症の影響により主力のタイヤに加えMB、ATGとも低調で、前年同期比20.6%減の2,471億円となりました。

ポイント2 事業利益・営業利益

販売数量の減少、生産量減少に伴う製造原価の悪化、タイヤ事業において第1四半期に北米におけるリコールに関連した在庫整理費用を計上したことなどにより、事業利益は前年同期比86.8%減の23億円、営業利益は同88.3%減の29億円となりました。

ポイント3 資産

前期末比503億円減の8,572億円となりました。売上債権や投資有価証券の減少が主因です。

ポイント4 負債

前期末比210億円減の4,589億円となりました。仕入債務の減少が主因です。

ポイント5 資本

前期末比293億円減の3,984億円となりました。為替相場変動の影響や投資有価証券の時価評価などによるその他の資本の構成要素の減少が主因です。

ポイント6 連結キャッシュ・フロー計算書

営業活動による資金の増加は、売上債権の回収などにより192億円となりました。投資活動による資金の減少は、有形固定資産の取得などにより190億円となりました。財務活動による資金の増加は、有利子負債の増加などにより124億円となりました。

タイヤ

プレミアムからオールシーズンタイヤまで。国内外の車種に相次いで新車装着

本年上半期(1月~6月)も、フラッグシップブランド「ADVAN」や低燃費タイヤブランド「BluEarth」、オールシーズンタイヤを中心に国内外で新車装着用タイヤの納入を拡大しました。「ADVAN」ではハイパワー・プレミアムカー向け高性能タイヤ「ADVAN Sport V107」がSUVを中心にメルセデスAMGの5つのシリーズとBMWの2車種に相次いで装着されました。「ADVAN Sport V107」は現行モデルの「ADVAN Sport V105」の優れた快適性や安全性を維持したままプレミアムカーに必要なドライビングパフォーマンス性能を向上。納入タイヤは各カーメーカーと共同開発したもので、タイヤサイドには技術承認の証としてメルセデスAMG向けには「MO1」マーク、BMW向けには★印(スターマーク)が刻印されています。また、オールシーズンタイヤの需要が高い米州では「AVID S34RV」および「AVID GT」がクライスラーとSUBARUの新型車に装着されました。2商品とも優れた走行性能と安全性能の実現および低燃費性能の向上に加え、突然の降雪にも対応可能なオールシーズンタイヤで、

タイヤサイドには「M+S(マッド+スノー)」が打刻されています。国内では「BluEarth」が三菱、日産、ダイハツの計6車種に装着されました。中でも、三菱「ミラージュ」に装着された「BluEarth-GT AE51」は2019年より市販用としても販売しており、走行性能、快適性能、環境性能の全てに優れた高いグランドツーリング性能を実現しています。



BMW「X3」「X4」に装着された「ADVAN Sport V107」 SUBARU「レガシィ」「アウトバック」に装着された「AVID GT」 三菱「ミラージュ」に装着された「BluEarth-GT AE51」

■2020年上半期の主な新車装着用タイヤ納入実績

ADVAN Sport V107	メルセデスAMG「GLE 53 シリーズ」	AVID GT	SUBARU「レガシィ」
	メルセデスAMG「GLE 63 シリーズ」		SUBARU「アウトバック」
	メルセデスAMG「GLS 63 シリーズ」	BluEarth-GT AE51	三菱「ミラージュ」
	メルセデスAMG「GLA 35 シリーズ」	BluEarth-FE AE30	三菱「eKクロス スペース」
	メルセデスAMG「GLA 45 シリーズ」		三菱「eKスペース」
	BMW「X3」		日産「ルークス」
	BMW「X4」		ダイハツ「タフト」
AVID S34RV	クライスラー「ボイジャー」	BluEarth E70	日産「キックス」

ヒストリックカー向けタイヤのラインアップを拡充

本年3月、海外市場で人気の「RADIAL 360 STEEL」の国内販売を開始したほか、当社の歴史的なブランド「G.T.SPECIAL」の名を冠した「G.T.SPECIAL CLASSIC Y350」に3サイズを追加しヒストリックカー向けタイヤのラインアップを拡充しました。「RADIAL 360 STEEL」はクラシックデザインとサイドウォールのホワイトリボンが特長の1960年~70年代のアメリカ車に最適な商品で、「G.T.SPECIAL CLASSIC Y350」はクラシックデザインにマイルドな乗り心地と安全性を実現し、1960年~70年代のイギリス車や国産車をターゲットとしています。



「RADIAL 360 STEEL」(左)と「G.T.SPECIAL CLASSIC Y350」装着車

ジムカーナ向けタイヤに新サイズを追加

本年2月、ジムカーナ競技向けタイヤ「ADVAN A08B SPEC G」に1サイズを追加し全5サイズの販売を開始しました。「ADVAN A08B SPEC G」は、サーキット走行やラリー、ジムカーナなど様々な競技に使用できるストリートラジアルタイヤ「ADVAN A08B」をベースに、ジムカーナ競技向けに最適化したコンパウンドを新規採用することでドライおよびウェット性能を高次元で実現しています。

※写真は「ADVAN A08B」



ADVAN A08B

世界的に権威あるデザイン賞を受賞

本年2月、ウルトラハイパフォーマンスサマータイヤ「ADVAN APEX V601」が1953年に創設された歴史あるデザイン賞「iFデザインアワード2020」(プロダクト部門)を受賞しました。同商品は当社の歴史的ヒット商品である「YOKOHAMA A008」のトレッドパターンを彷彿とさせる非対称パターンに最新のハイパフォーマンスタイヤテクノロジーを投入し、ウェット性能やハンドリング性能を高次元で両立するとともに、優れた静粛性、コーナリング性能を実現しています。また、「ADVAN APEX V601」は世界最大規模の自動車用品ショー「2019 SEMA Show」でも優秀な商品に贈られる「Runner-up Awards」を受賞しています。



ADVAN APEX V601

日刊自動車新聞用品大賞のタイヤ部門賞を受賞

本年7月、乗用車用オールシーズンタイヤ「BluEarth-フォーエバーグリーン」が「日刊自動車新聞用品大賞2020」の「タイヤ部門賞」を受賞しました。近年オールシーズンタイヤ市場が注目を集めている中、高レベルでの雪上性能、ウェット性能、ドライ性能のバランスを実現し、サマータイヤ、スタッドレスタイヤに加わる新たな選択肢を自動車ユーザーに提供したことが評価されました。



表彰盾を手にする日刊自動車新聞の高橋賢治社長(左)と横浜ゴムの政友毅消費財製品企画部長

タイヤ

小型トラック用オールシーズンタイヤ発売

本年4月、小型トラック用オールシーズンタイヤ「LT752R」^{エルトディーナゴ・ニューオール}を発売しました。「LT752R」は経済性と安全性を高いレベルで両立させることを目指して開発。トラック・バス用タイヤで培ったトレッドパターン技術を小型トラック用に最適化して採用。ブロックを互い違いに配置する千鳥ブロックレイアウトやセンター「Z」ブロック、ワイドセンターグループなどにより、優れた耐摩耗性能、低燃費性能を実現するとともにウェット制動性能を向上しました。また、センターグループの新ストーンイジェクターがベルト構造部損傷の原因になる石噛みも防御します。



LT752R

ゴルフ

「RS5ドライバー」新発売

本年8月、ゴルフを真剣に楽しむアマチュアゴルファー向け「RS」シリーズをフルモデルチェンジし、「ギリギリの飛び」に「快心の一撃性能」をプラスした「RS5」シリーズのドライバー3モデルを発売しました。「RS」シリーズのSLEルール適合内ギリギリの高初速性能を踏襲しながら強芯ポイントを加えた「W CORE設計」を採用し、広い高初速エリアに加え、高い反発性能とフェースセンターのたわみ量の最大化が生み出す快心の一撃性能を実現しています。それぞれのモデルごとに専用のコラボレーションシャフトを採用し、ゴルファーのパワーやニーズで選べる設計となっています。



「RS5ドライバー」

ウルトラワイドベーススタッドレスタイヤ発売

本年秋、トラック用ウルトラワイドベーススタッドレスタイヤ「903W」^{キョーマルザン・ダブルユー}を発売します。ウルトラワイドベースタイヤは2本1組の複輪を単輪に置き換えられるタイヤで、軽量化による積載量増加やタイヤ組み換え・日常点検などの省メンテナンス化に貢献します。「903W」は氷雪上性能重視型スタッドレスタイヤ「ZEN 903ZW」^{セン・キューマルザン・ゼットダブルユー}のトレッドパターンや独自のベルト構造「SpiraLoop」^{スパイラループ}を採用し優れたスタッドレス性能と摩耗ライフを両立しました。



903W

新フラッグシップモデル「PRGR IRONs」発売

本年8月、アイアンの新フラッグシップモデル「PRGR IRONs」^{プロギア・アイアン}からアイアン2モデルとウェッジを発売しました。同モデルはアイアンに求められる構えやすさ、打感、飛距離性能、コントロール性、やさしさを追求したシリーズ。今回、打感の良さとやさしさを兼ね備えた



「PRGR 01 IRON」

プロギアセロイチ・アイアン「PRGR 01 IRON」、構えやすくやさしさも兼ね備えた飛び系のプロギア・ゼロニ・アイアン「PRGR 02 IRON」、やさしさとコントロール性を兼ね備えたプロギア・ゼロ・ウェッジ「PRGR 0 Wedge」をラインアップしています。

モータースポーツ

米国のポルシェレースにワンメイク供給

本年7月より米国で順次開催されている「Porsche Sprint Trophy USA West」「Porsche Sprint Trophy USA West Invitational」「Porsche Air-Cooled Cup USA」に「ADVAN」^{アドバン}ブランドのタイヤをワンメイク供給しています。同3シリーズは様々な年代や車種のポルシェ車両により競われるレースです。当社はこれまでも「IMSA Porsche GT3 Cup Challenge USA by Yokohama」「Porsche Pikes Peak Trophy by Yokohama」をはじめ北米におけるポルシェレースを幅広くサポートしており、こうしたレースでのヨコハマタイヤの高い性能と安定した供給体制が評価されました。



「IMSA Porsche GT3 Cup Challenge USA by Yokohama」の参戦車両

CSR

国内拠点の環境保全活動が高い評価

本年1月、尾道工場が一般社団法人「いきもの共生事業推進協議会（ABINC）」の第2回ABINC賞において特別賞を受賞しました。同賞は「いきもの共生事業所®認証」を取得した事業所のうち生物多様性への貢献度が高い事業所を表彰するもので、尾道工場の森の再生活動や野鳥や昆虫が生息する空間（ピオトープ）創出活動などが評価されました。また本年2月、平塚製造所が神奈川県とかながわ地球環境保全推進会議が主催する「令和元年度かながわ地球環境賞」を受賞しました。2009年から毎年開催している体験型環境イベント「Think Ecoひらつか」の取り組みが高く評価されました。



尾道工場敷地内での野鳥観察

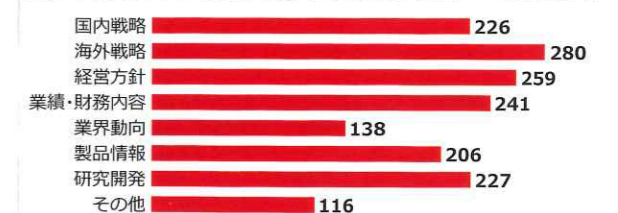
株主アンケート結果報告 ● アンケートへのご協力ありがとうございました。

第144期期末報告書でアンケートを実施し761枚(回収率6.9%)のご回答をいただきました。集計結果の一部をご報告します。

Q. 今回の期末報告書をどのように評価されますか？



Q. 今後、どのような情報の充実を望まれますか？ (複数回答可)



お送りいただいた貴重なご意見は今後の中間・期末報告書やIR活動などに活かしてまいります。

新商品やイベント情報をSNSでも発信しています。

